

平松守彦元知事の一村一品運動。四半世紀も前の昭和54年（1979）に大分県知事に就任するや、同県下の全市町村で「一村一品県民運動」を開始し、一躍、マスコミの寵児になりました。「地域の顔、地域の誇りとなるものを掘り起こし、場合によっては新たに創出して、磨きをかけ、全国や世界に通用するものに育てていこう」というユニークな発想。その頃から唱えられていた過疎振興・地域活性化にピッタリの運動でした。一村一品運動の先進地として全国的に有名になった人口約1万人の湯布院町には年間380万人もの観光客が来て、町に活気を与えています。また、海外の要人をはじめ様々な国から一村一品運動視察団がほぼ毎日のように大分県に来るようになり、1992年4月には、大分ーソウル間に国際航空路線が開設され、2002年4月には、大分ー上海便も開設されました。また、立命館大学アジア太平洋キャンパスも大分県に開校されました。一村一品運動は大分県の国際化にも大きく貢献したと言われます。

この運動は日本だけでなく、世界各地で受け入れられ、地域振興の手法とし確立されつつある。セミナーで採択された宣言は、世界各国・地域が協力して運動を推進することを呼びかけている。中国の農村は都市部に比べ経済の発展が大きく立ち遅れており、厳しい状況におかれているが、地元の特徴を活かし、市場のニーズにあった良品を作り、農村経済の発展を推進することが強く期待されている。

★有名になった「平松イズム」があります。一村一品の3原則です。



1) ローカルにしてグローバル

つまり地域文化の香りを持ちながら、全国・世界に通用する「モノ」を創る。

2) 自主自立・創意工夫

何を選び、育てていくかは地域住民自身が決めて創意工夫を重ね、磨きをかけていく。
行政は、技術支援やマーケティングなど側面から支援する。

3) 人づくり

究極の目標は人づくり。何事にもチャレンジする創造力に富んだ人材を発掘し、
先見性のある地域リーダーに育てる

1993年浙江省郷鎮企業局平松知事訪日

以後、多くの浙江省の地方政府の視察団が大分を訪れている。

義烏市も、昨年、数組の訪日視察団が来日しているが、毎回、大分県を訪問している。